

## 基本目標 6 活力と賑わいのある自立したまち

- 農林業、商工業・観光業・サービス業との連携を進めるなど、既存産業の高付加価値化と生産性の高いものづくりや持続的発展可能な産業が行われているまちを目指します。
- 個々の属性に関わらず雇用機会が豊富にあり、起業にチャレンジしやすいまちを目指します。

### 3つのチャレンジ

継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国有数の果物産地を支えてきた農業者の技術の継承</li> <li>● ものづくりの技と精神の伝承</li> <li>● 社会全体の財産としての森林</li> <li>● そこに暮らす人々による歴史や伝統の継承</li> </ul>
進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTを活用した農業の栽培技術等の革新</li> <li>● ロボット技術やドローン等の農林業への活用</li> <li>● AI・IoT等を活用した新技術・新製品の開発</li> <li>● 大型商業施設に係る誘客効果の市全域への波及</li> </ul>
学びと行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人ひとりが地域産品の価値を知り、周囲に勧めるなど地産外商の取組</li> <li>● 国民全体が享受する農地や森林が有する多面的な機能への理解</li> <li>● まちの活力や賑わいの創出に向けて、民間事業者、関係機関、行政がそれぞれの強みを生かした役割を实践</li> </ul>

## 基本 施策

# 11 多様な産業の活力あふれる まちづくり

### 施策28 農業の振興



### 施策の目指す姿

- 須坂の土地や気候を活かした付加価値の高い農業が活発に行われ、市内外から新規就農する人が生まれるまちを目指します。

#### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値 (年度)	目標値 (2030年)
統計指標	農業産出額 (千万円)	1,204 (2023)	1,300
市民意識指標	「農業の活性化」の満足度 (%)	32.5 (2025)	40

#### ◆現状と課題

- ☞ ぶどうを中心とする果実の価格が安定して伸びており、農業産出額も好調に推移していますが、気候や市場の変動による価格の下落のリスクに備えておく必要があります。長期的には地球温暖化による影響も加味し、新しい品種や栽培方法等の研究に取り組んでいく必要があります。

### 3. 施策の展開

- ☞ 須坂市の農業の特徴は、高単価な果実が主要作物であることもあって、畑地の大区画化や作業の省力化など、効率的な農業が進んでいないことが課題となっています。
- ☞ 農業の担い手の高齢化と人手不足が進行することにより、遊休農地が発生するという負のスパイラルを改善していくための取組が求められます。特に中山間地の担い手の減少や遊休農地の増加が顕著になってきています。
- ☞ 高品質の果実を生み出すためには、かん水施設が重要です。各地にあるかん水施設は土地改良区や農業団体などにより維持管理されていますが、施設の老朽化や農業者の高齢化、後継者不足等により、維持管理も年々困難になってきています。
- ☞ 中山間地域における有害鳥獣による被害が増加しています。また、侵入を防ぐための電気柵の維持管理についても、高齢化などによる担い手不足により年々困難となっています。

#### ◆施策の取組方針

- ☞ 主力である果実の付加価値をさらに高めるとともに、プロモーション等の活動を継続し、ブランド力の向上を図ります。
- ☞ 県及び関係機関と連携し、新規就農者をはじめとする後継者を育成・支援するとともに、必要な労働力の確保につとめます。
- ☞ ICTの活用によるスマート農業の導入の可能性を探り、農作業の省力化を検討します。
- ☞ 地域にある県の農業試験研究機関（農業試験場・果樹試験場）やJAと連携し、最新の情報や技術を活用し農業振興を図ります。
- ☞ 老朽化しているかん水施設等の農業用施設について、地域と一体になった維持管理を推進します。
- ☞ 引き続き、須坂市有害鳥獣被害対策実施隊と連携して有害鳥獣対策に取り組むとともに、電気柵の維持管理にあたっては、その意義を住民が理解するとともに、多様な人の参画により継続的な活動となるよう、活動の紹介や動機づけに取り組めます。

#### ◆主な取組内容

農林課

取組項目	具体的な内容
高品質・付加価値の高い農産物のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇全国でも有数の果物産地として、JA等、他団体との連携による安定的生産と更なるブランド力の向上と連携による情報発信</li> <li>◇地域に残る貴重な信州伝統野菜（八町きゅうり、村山早生ごぼう、沼目越<sup>しろうり</sup>瓜）を次世代へつなぐ</li> <li>◇銀座 NAGANOやインターネット等を活用したプロモーションの実施</li> <li>◇観光部局との連携による有効的なイベント実施に向けた情報収集</li> </ul>
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇須坂市産農産物の購入を促進するためのプロモーションの実施</li> <li>◇須坂市産農産物を活用し、子どもたちへ農業等に関する理解を深める</li> <li>◇生産者と飲食店等が一体となった取組による須坂市産農産物の普及</li> <li>◇保育園や学校給食における地元産食材の活用</li> </ul>
気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇JAや県と連携による温暖化に対応した作物や栽培技術の研究</li> <li>◇頻発する災害に対応するための収入保険の加入促進</li> </ul>
次世代型農業の研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自動草刈機、作業アシストスーツ等、農作業の省力化の支援</li> <li>◇モバイル型タブレット端末による農地の現状調査</li> <li>◇ドローンやAI、ICTを活用した最新の栽培技術の情報収集と活用の可能性の検討</li> </ul>

取組項目	具体的な内容
農業経営者対策の推進	◇認定農業者等、地域の担い手へ農地の集積と支援による経営力の向上 ◇農業者向けの講習会・セミナーなどの実施
農業後継者対策の推進	◇新規就農者用作業場、里親農業者、優良園地の確保等、新規就農しやすい環境の整備 ◇市内外の非農家出身者への広報 ◇国、県などの支援事業の有効活用 ◇農家子弟などの後継者が回帰しやすい環境づくり
労働力の確保	◇障がい者施設との連携など幅広い人材の確保 ◇農業サポートセンター事業による農業サポーターの確保と技術講習の機会の提供
遊休農地解消対策の推進	◇農地バンクの周知、利用促進 ◇遊休農地解消補助金の周知、利用促進 ◇中間管理事業の活用による農地の集積・集約化 ◇地域、農業委員会、農業関係団体等が一体となった取組による解消の推進
農業用施設の適正な維持管理の推進	◇農道・用排水路の維持管理 ◇多面的機能交付金等を活用した住民自らの手による農業用共同施設の適正な維持管理
有害鳥獣被害対策の推進	◇住民や猟友会と連携した鳥獣対策の推進 ◇須崎市鳥獣被害対策実施隊の活動支援 ◇電気柵の効率的な管理方法の検討 ◇生ごみの適正管理など、有害鳥獣被害対策に関する啓発 ◇鳥獣被害軽減に向けたジビエ利活用の研究
家畜防疫対策の促進	◇家畜農家数の減少による防疫体制の見直し

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
学校給食における地元農産物の使用割合（％）	7.6（2024）	10.0
新規就農研修給付金給付者数（人）	104（2024）	140（累計）
年間就農相談件数（件）	51（2024）	55
遊休農地解消面積（ha）	72.7（2024）	85.0（累計）
中間管理事業を活用した農地の集約集積面積（ha）	37.5（2024）	190.0（累計）

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	農産物のおいしさを市内外へPRします
企業	農産物のおいしさを市内外へPRします ICT技術の研究に取り組みます 農産物を使った加工品の開発・販売に取り組みます
活動団体	農産物のおいしさを市内外へPRします 農産物のブランド化に取り組みます 電気柵の維持管理に取り組みます 地産地消の推進に取り組みます 地域の協議により将来の農地利用の姿を明確化した地域計画の実現に向けて取り組みます

## 施策29 ▶ 森林の保全・活用



### 施策の目指す姿

- 適切な森林の育成管理と基盤整備により、森林を社会全体の「緑の財産」として次の世代に引き継ぐまちを目指します。

#### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
市民意識指標	「森林の保全・活用」の満足度（％）	21.4（2025）	30

#### ◆現状と課題

- ☞ 森林経営計画が樹立されず、長期にわたって間伐が実施されていない私有林の人工林が約2,000haあり、間伐等の森林整備を進める必要があります。
- ☞ 森林は水源涵養、土砂災害防止、二酸化炭素吸収、生物多様性保全など多岐にわたる重要な役割があり、住民はその恩恵を享受していることを広く知ってもらうことが必要です。

#### ◆施策の取組方針

- ☞ 森林整備を進めるとともに、木材利用の推進、作業道等の整備等、森林整備の促進に関する事業について森林環境譲与税を財源としながら進めます。

#### ◆主な取組内容

農林課

取組項目	具体的な内容
森林の保健機能の増進	◇ 森林ウォーキングや自然散策を楽しむための森林環境の保全や里山遊歩道の整備・利活用 ◇ 施設、設備等の維持管理
間伐事業の推進と間伐材の活用	◇ 森林経営計画制度の運用による森林整備の推進 ◇ 森林環境譲与税を財源とした間伐材の利活用の推進 ◇ 林道施設の維持管理の実施
治山事業の推進	◇ 自然災害による被災箇所の復旧 ◇ 予防治山としての防災減災措置の実施
松くい虫などの防除対策の推進	◇ 被害木伐倒駆除及び地上薬剤散布により被害のまん延防止の推進 ◇ 発生場所・危険度から設定した優先順位に基づく被害木の伐採の推進
森林の有する機能の周知	◇ 森林が持つ多面的な機能を理解するための広報の推進

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
間伐整備の実施面積（ha）	1,373.08（2024）	1,600（累計）

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	社会全体の財産である森林について関心を持ち、資源を活用します
企業	森林経営計画に基づいた施業の集約化を図ります
活動団体	地域住民の参画による里山の整備・利活用をすすめます

## 施策30 ▶ 強みを活かした持続的発展可能な産業の実現



### 施策の目指す姿

●生産性の高いものづくりや持続的発展可能な産業が行われているまちを目指します。

#### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
統計指標	製造品出荷額等（百万円）	167,622（2022）	183,231（2027）
統計指標	新技術・新製品開発認定件数（件）	2（2024）	10（累計）

#### ◆現状と課題

- ☞ 多様な産業が混在する市内製造業等の産業構造を分析し、企業等の要望を参考にしながら施策に反映していく必要があります。
- ☞ 産業コーディネータ、産業アドバイザーを積極的に活用している企業がある一方、未活用の企業も多く、積極的な活用促進に向けて周知を進めていく必要があります。
- ☞ 新たな企業を誘致するための空き用地が十分でないことが課題となっています。また、工業系の用途地域外や市街化調整区域内の既存企業の拡張についても法規制により思うように進んでいません。
- ☞ 創業希望や投資等に対する相談等が活発に行われておらず、起業マインドを高めていく取組の強化が必要です。
- ☞ 人口減少や新たな産業団地の開発に伴い、既存企業も含めて人手不足が課題となっています。既存の労働力の配分を変え、省力化などにより生産性を見直す取組強化が必要です。
- ☞ 温暖化など気候変動対策のため、企業の脱炭素経営を推進する必要があります。

#### ◆施策の取組方針

- ☞ AI・IoTを活用した新技術・新製品の開発や関係各課と連携した開発手法の検討などを継続し、Society5.0時代の持続的発展可能な産業の実現を目指します。
- ☞ 企業によるAI・IoT活用及びDX化を支援し、生産効率の向上や人手不足解消を目指します。
- ☞ 企業誘致につなげるため、新たな産業団地造成のための調査研究を進めます。
- ☞ 生活様式の多様化や働き方改革など、社会情勢の変化に応じて臨機応変に創業支援策を講じていきます。
- ☞ 異業種や教育機関、研究機関との連携により、産業の高度化・高付加価値化の可能性を研究します。
- ☞ 環境負荷の軽減、持続可能な社会の実現のため、GXやカーボンニュートラルなどの研究や企業への支援に取り組みます。

## ◆主な取組内容

### (1) 既存産業の高度化・高付加価値化

産業政策課

取組項目	具体的な内容
地域企業の技術力、経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇産業コーディネート・アドバイス事業を中心とした産学官金連携事業による企業の技術開発、研究開発の支援</li> <li>◇地域の産業人材の育成、企業の経営基盤強化のための産業人材育成事業の一層の充実</li> <li>◇ものづくり補助金、グループ補助金等、多種多様な補助金の活用に向けた情勢の把握</li> <li>◇市内企業で構成される各研究会等による課題発見・解決の取組支援</li> <li>◇中小企業を対象としたDXに対する意識醸成と導入の支援</li> </ul>
提案公募型事業（競争的資金）の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇国・県などの提案公募型事業（競争的資金）の導入による技術開発・研究開発の支援</li> <li>◇補助金の周知と申請の促進</li> </ul>
販路開拓の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇展示会・商談会への出展支援</li> <li>◇信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO（ショップスペース）」の出品支援</li> </ul>
産学官金連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇AI・IoT活用研究会を活用した先進的な取組に関する情報の収集</li> <li>◇研究会メンバーの充実と次世代を見据えた産業人材の育成</li> <li>◇事業者の業務改善、AI・IoTを活用した新たな事業の開発等につながる先進事例に関する勉強会等の実施</li> <li>◇イノベートSUZAKAを活用したGX等の研究及び情報の収集</li> </ul>

### (2) 持続的発展可能な産業の実現・企業誘致

産業政策課

取組	具体的な内容
企業誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇企業の事業拡大等のための産業用地整備に関する検討</li> <li>◇地域未来投資促進法などの開発手法の積極的な活用</li> <li>◇特定地域等の空き工場、工業系未利用地の把握及び立地希望事業者への空き工場等の紹介、マッチング</li> </ul>
創業希望者及び事業継承への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇創業支援等事業計画に基づく創業支援</li> <li>◇創業希望者（IT人材等）及び事業継承を希望する事業者への関係機関と連携した支援</li> </ul>
産学官金連携の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇共同研究施設、企業間の交流スペース等を備えたネットワーク拠点施設として、信州大学須坂市研究連携センター（SSRC）の活用促進</li> <li>◇企業経営者が主体となった地域の課題解決の推進</li> </ul>

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
国県などの公募型支援金等申請書作成にかかる支援件数（件）	15（2024）	80（累計）
産学官金連携にかかる各種研究会の会員数（社・団体）	188（2024）	200

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	須坂で生まれた新製品、新技術に関心を持ち、積極的に発信します 個々のおかれている環境や属性に関わらず、多くの市民が就業します
企業	産学官金連携による地域特性を活かした産業の研究に取り組みます 各研究会内での企業間連携、経済団体との連携を図ります
活動団体	多様な働き方のスタイルに対応した受け皿・体制づくりを行います

## 施策31 雇用機会の充実と産業人材の育成



### 施策の目指す姿

- 働く意欲を持った人たちが、その知識や能力をいかし、豊かな生活を送ることができるまちを目指します。

#### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
市民意識指標	「雇用機会の充実と産業人材の育成」の満足度（％）	15.8（2025）	20

#### ◆現状と課題

- ☞ ICT化、働き方改革など、雇用を取り巻く環境が大きく変化している中、雇用者を確保し、企業を発展させるためには、AI・IoT、ビッグデータなどの新技術を柔軟に取り入れていく必要があります。
- ☞ 新たな労働力として、多様な働き方による労働力確保が必要です。
- ☞ 若者層の県外への流出や自然減の影響から、多くの産業分野で人材不足が深刻になっています。若年層から地元企業に関心を持ってもらい、将来の地元企業への就職に繋げるため、産業構造や地域愛の醸成が必要です。

#### ◆施策の取組方針

- ☞ 社会の変化や技術革新に応じ、AI・IoT等の新たな技術を習得した、企業が求める人材の育成を支援し、市内産業の生産性の向上を目指します。
- ☞ 多様な働き方を推進し、年齢や性別、障がいの有無などの個々の属性にとらわれず、全ての人が安心して地域で働くことができる環境を整えます。
- ☞ 長野地域連携中枢都市圏等と連携し、市外居住の若者等が地域で働く機会を創出します。
- ☞ デュアルシステム（※）に係る支援や高校生を中心とした職業観の早期醸成事業を実施し、地元企業への関心や意識の向上を図り、高校生や大学生をはじめとする若年層の地元企業への就職を促進します。

※デュアルシステム…専門高校や専門学校あるいは公共職業能力開発施設や認定職業訓練施設などが、座学と企業内の実習を並行して実施する職業訓練システム。

#### ◆主な取組内容

産業政策課

取組項目	具体的な内容
企業が求める産業人材の育成支援	◇新しいものづくりの技術・手法（AI・IoT技術、生産管理・IE手法等）の技術講座やデジタル人材育成講座の実施 ◇会員企業や受講者へのアンケート実施によるニーズの大きい講座の企画
職業観の早期醸成	◇高校生の地元企業紹介事業の実施 ◇次世代を担う小中学生を対象とした、ものづくりの楽しさを学ぶ講座の実施 ◇高校生との協働事業「須坂アオハル塾」の実施

取組項目	具体的な内容
若年労働者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇長野地域連携中枢都市圏等と連携し、大学新卒者などと企業とのマッチングの機会の提供</li> <li>◇市外の実業高校等と市内企業のインターンシップ調整</li> <li>◇若手社員の育成支援及びモチベーション向上を目的とした若手ものづくり技能功労者表彰の実施</li> </ul>
須坂市版デュアルシステムに係わる支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇デュアルシステム協力企業会事務局の業務を通じた、学校・企業間連携の円滑化</li> <li>◇デュアルシステムでの就業体験、企業実習の受入れ支援などによる産業人材の育成</li> <li>◇須坂創成高等学校創造工学科の取組に関する市外中学校等へのアピール強化</li> <li>◇地元企業（デュアルシステム協力企業）への就職率向上</li> </ul>
就業支援センター（愛称「ゆめわーく須坂」）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇求職者、在職者に対する就業相談の充実</li> <li>◇子育て世代のための就業相談の実施等、子育て支援センターと連携した相談体制の充実</li> <li>◇「まいさぼ須坂」など他の支援機関との連携や役割分担の明確化</li> <li>◇求職者の早期就業に向けたセミナー実施</li> </ul>
雇用機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇長野労働局との雇用対策協定に基づき、ハローワーク須坂と連携及び協力による一体的な雇用対策を実施</li> <li>◇大手スポットワーク事業者との事業連携協定に基づき、スポットワークなど多様な働き方を推進し、雇用を創出</li> </ul>
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇セミナー及びワークショップ、就業相談等を通じた子育て世代の働き方に関する総合的な支援</li> <li>◇「職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度(※)」の周知及び同制度の申請啓発と登録企業の広報</li> <li>◇ワーク・ライフ・バランスの促進による市内企業の労働力確保</li> </ul>

※ 職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度…ワーク・ライフ・バランスの促進や多様な働き方等の制度を導入し、実践的な取組を行っている事業者を認証する長野県の制度。

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
高校卒業時に正規職員として就職した人のうち、市内に就職した人の割合（%）	30.0（2024）	40.0
市が主催・共催する就職相談への参加者数（人）	447（2024）	530
職場いきいきアドバンスカンパニーへの認証（社）	9（2024）	15
産業人材育成講座の参加者数（人）	170（2024）	190

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	個々のおかれている環境や属性に関わらず、多く市民が就業します
企業 活動団体	多様な働き方のスタイルに対応した雇用の受け皿・体制づくりをすすめます

## 施策32 商業の活性化



## 施策の目指す姿

- 個性的で魅力のある店が集まり市民や来訪者が魅力を感じ、買い物を楽しめるまちを目指します。

## 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
市民意識指標	「商業の活性化」の満足度（％）	36.5（2025）	40.0
市民取組指標	「日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている」人の割合（％）	60.3（2025）	65.0

## ◆現状と課題

- ☞ 買い物行動の変化や物価高騰等の影響により、商業を取り巻く環境は大変厳しくなっており、商店街といった地域コミュニティを形成する中小店舗の存続が困難となっており、かつて商店街が設置した街路灯の維持管理や集客イベントの開催が難しい状況となっています。
- ☞ 須坂駅周辺や須坂伝統的建造物群保存地区を中心とした歴史的な町並みが集中する地域は、市民が生活・活動する拠点であるとともに、歴史・文化・暮らし・なりわいなどを生かした質の高い空間として、市民や来訪者が魅力を感じることができるエリアとしても重要な役割を担っています。
- ☞ 須坂長野東IC周辺への大型商業施設開業により、そこに来られる方をいかに市街地に引き込むか、大型商業施設との連携や既存店舗の魅力を更に高めることが今後より一層重要になります。
- ☞ 将来に向け継続して店舗を営業していくためには、今後の人材不足や新たな環境に対応した経営改善が必要です。
- ☞ 古い町並みに残る建物を利用して個性的で魅力的な店舗が増えてきています。

## ◆施策の取組方針

- ☞ 既存店舗では、「まちゼミ」や「まちの駅」など各個店の独自性やお客様とのつながりを大切にした取組を行います。
- ☞ 創業希望者及び事業承継を検討している事業者に対しては、関係機関と連携し必要となる支援を行います。また、個性的で魅力的な集客力がある個店の積極的な開業支援に取り組みます。
- ☞ 個性的で魅力的な店舗の情報を発信し、市民との共有を図り、互いが紹介できるよう取り組みます。

- ☞ 大型商業施設内に設置した須坂市ブースの機能を最大限活用し、既存店舗との連携や起業支援、情報発信による地域の魅力向上を図ります。
- ☞ 商店街団体等の活動に対し主体的で積極的に取り組んでいただけるよう寄り添った支援を行います。

## ◆主な取組内容

産業政策課

取組項目	具体的な内容
個性的で魅力のある店への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇関係機関や関係者との一体的支援体制の構築し、出店準備や経営継続に向けた事業計画の作成・手続きなどの支援</li> <li>◇空き店舗、歴史的建造物等を活用した出店の支援</li> <li>◇関係機関と連携した「まちゼミ」・「まちの駅」事業などを通じた誘客</li> </ul>
商店街団体への支援	◇継続性を持った商業活性化への取組 に対する支援
大型商業施設との連携と機能活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇既存店舗等との連携（紹介や販促イベント等）</li> <li>◇農産物など地域資源の販売・紹介</li> <li>◇ブースを活用した地域の文化・風土、食文化の魅力の発信</li> <li>◇施設事業者や関係機関との密接な連携</li> </ul>
創業及び事業承継への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「創業支援等事業計画」に基づきサービスを提供する体制構築</li> <li>◇長野県事業引継ぎセンターや須坂商工会議所、地域の金融機関、との情報共有による円滑な事業承継のための相談支援体制の充実</li> </ul>

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
空き店舗等情報の提供及び支援相談件数（年間）（件）	31（2024）	35

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のまちにはない須坂の良さに着目し、再認識します</li> <li>須坂のまちの魅力と豊かさを自ら楽しみます</li> <li>地域の魅力を知り、お互いや来訪者に紹介できるよう取り組みます</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>須坂のまちのにぎわいづくりに貢献します</li> <li>魅力ある店づくりに取り組みます</li> </ul>
活動団体	さまざまな活動を通じて、須坂のまちのにぎわいづくりに貢献します

## 施策33▶ 地域資源を活かした観光の振興



### 施策の目指す姿

- 蔵の町並み、素晴らしい自然や景観などの観光資源を磨き、須坂でしかできない体験を観光客に提供できるまちを目指します。
- 豊かな自然と歴史文化に恵まれた観光資源を磨き、市民にも訪れた人にもやさしいまちを目指します。

### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
市民取組指標	「須坂市を観光地として市外の人におすすめしている」人の割合（％）	25.6（2025）	28.0

### ◆現状と課題

- ☞ 通年で強力な集客力を持つシンボリックな観光地がないため、新たな観光コンテンツの発掘をすることで魅力を上げることが必要です。
- ☞ 何度も訪れたい観光地であり続けるために、観光資源の磨き上げや地道な観光PRを行っていく必要があります。
- ☞ 広域的な観光資源の連携と戦略的広報の重要性はさらに増すと考えられます。市町村の枠を超えた広域的な取組のできる人材の育成が必要です。
- ☞ 観光分野は専門性や地域の特色など幅広い知識と経験が必要とされ、それらに精通した専門の人材の確保が重要です。

### ◆施策の取組方針

- ☞ 観光案内看板の設置、観光施設間の連携等、観光資源の線的・面的な整備を行います。
- ☞ 大型商業施設において、観光資源の紹介などPRに努め、観光振興に取り組みます。
- ☞ 市民をはじめ関係機関や活動団体とともに観光客に響くコンテンツの発掘と戦略的な広報に取り組みます。
- ☞ インバウンド誘客を含めた広域的な観光誘客に向けた連携に取り組みます。
- ☞ 観光客が訪れたい、健康、文化、自然、農業や食体験等の「体験」を目的とした「コト観光」の普及に取り組みます。

## ◆主な取組内容

産業政策課

取組項目	具体的な内容
観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇須坂の伝統や歳時記なども含めた、積極的な観光情報PR・情報の発信</li> <li>◇年代別の効果的な情報発信手段の分析</li> <li>◇費用対効果等の観点からSNSなどのインターネットサービスを活用したPRへの転換</li> <li>◇大型商業施設内の須坂市ブースを活用した情報発信</li> </ul>
インバウンド（外国人旅行者）対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇日本文化の体験プログラムの策定支援</li> <li>◇地域の魅力的なコンテンツ開発への協力</li> <li>◇外国人観光客事業者の受入体制の充実、人材育成支援</li> <li>◇長野県、長野県観光機構等との連携</li> </ul>
既存観光資源の連携と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇大型商業施設の持つ集客力を活用したPR</li> <li>◇蔵の町並みの知名度向上と情報発信</li> <li>◇観光資源である「米子大瀑布」（指定名称は「米子瀑布群」）「峰の原高原」「五味池破風高原」の磨き上げ及び景観整備</li> <li>◇地域資源である健康、文化、自然、農業や食体験等を活かした各種ウォーキングイベント等を通じた地域の魅力発信と着地型旅行商品及び体験商品の開発支援</li> <li>◇長野県、近隣市町村と連携した「サイクルツーリズム」の推進</li> <li>◇車イス等の旅行弱者へ配慮した「ユニバーサルツーリズム」の推進</li> <li>◇交流・体験型宿泊パック、体験型学習旅行などの滞在型観光商品の開発推進</li> <li>◇信州フィルムコミッションネットワークと連携したロケの招聘</li> <li>◇峰の原高原の活用促進（ペンション、自然、クロカンコース、スキー場等）</li> <li>◇観光ガイドの育成</li> </ul>
広域観光資源の連携と広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇隣接県及び県内市町村等との広域的な観光資源の連携による効果的な広報</li> <li>◇小布施町、高山村と連携した広域観光圏事業の取組（須高地域広域観光協議会）</li> </ul>
観光施設の適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇将来的な費用負担を考慮した維持管理</li> </ul>

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
観光地利用者数（人）	723,800（2024）	800,000

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	自身の住むまちに誇りを持ち、まちづくり活動に取り組むとともに観光コンテンツの発掘や今ある観光資源の磨き上げに取り組めます。
企業	
活動団体	

## 施策34 特色を生かした地域振興の推進



### 施策の目指す姿

●須坂市の様々な魅力が全国に発信され、全国に広く認知されることにより、交流・関係人口の増加や産業の活性化につながるまちを目指します。

#### 【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
統計指標	ふるさと応援寄附金の寄附件数（件）	321,003（2024）	128,000

#### ◆現状と課題

- ☞ ふるさと納税指定対象団体取消し処分となり、復帰に向け、いかに信頼を回復し、寄附者とのつながりを再構築できるかが課題となっています。
- ☞ ふるさと納税や、蔵の町並みキャンパスなど、人と人とのつながりをいかに増やし、地域振興につなげるかが課題となっています。

#### ◆施策の取組方針

- ☞ ふるさと納税の復帰に向けては、取消処分に至った経緯・教訓を踏まえ、新たな事業運営方針及び事業スキームを構築し、制度の適正な運用を図ります。
- ☞ ふるさと応援寄附金の件数増加に向け、効果的な取組について研究を進めます。
- ☞ ふるさと納税制度を活用して須坂の様々な魅力を全国にPRし、交流・関係人口の増加につなげます。
- ☞ 大学や企業等との連携により、地域の魅力を向上させるとともに、若者に須坂をPRします。
- ☞ 多様な交流や協働の中で、地域への愛着や誇りを育み、地域力の向上や地域振興につなげます。

#### ◆主な取組内容

政策推進課／まちづくり課

取組項目	具体的な内容
信州須坂ふるさと応援寄附金の取組	◇ 寄附金制度を通じた関係人口（須坂FAN）の創出と継続的な関係構築の仕組みづくり ◇ ふるさと納税公式noteを活用した返礼品提供事業者のPR
「産学官民」の連携推進	◇ 地域振興に関係する様々な分野での大学や企業等との連携 ◇ 蔵の町並みキャンパス事業によるまちなかの賑わい創出及び学生から出されるアイデアの活用
地域づくりへの支援	◇ 各種助成金制度の一層のPR、申請のサポートなどを通じた地域づくり団体の活動支援

## 【プロセス指標】

指標名	現状値（年度）	目標値（2030年）
ふるさと納税公式 noteのフォロワー数（人）	704（2024）	850
蔵の町並みキャンパス事業の年間延べ参加者数（人）	1,000（2024）	1,100

## ◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	市外の知人・友人にふるさと納税やSNS等を通じて須坂市の様々な魅力をPRします
企業	魅力ある特産品をつくります
活動団体	市外の知人・友人にふるさと納税やSNS等を通じて須坂市の様々な魅力をPRします